

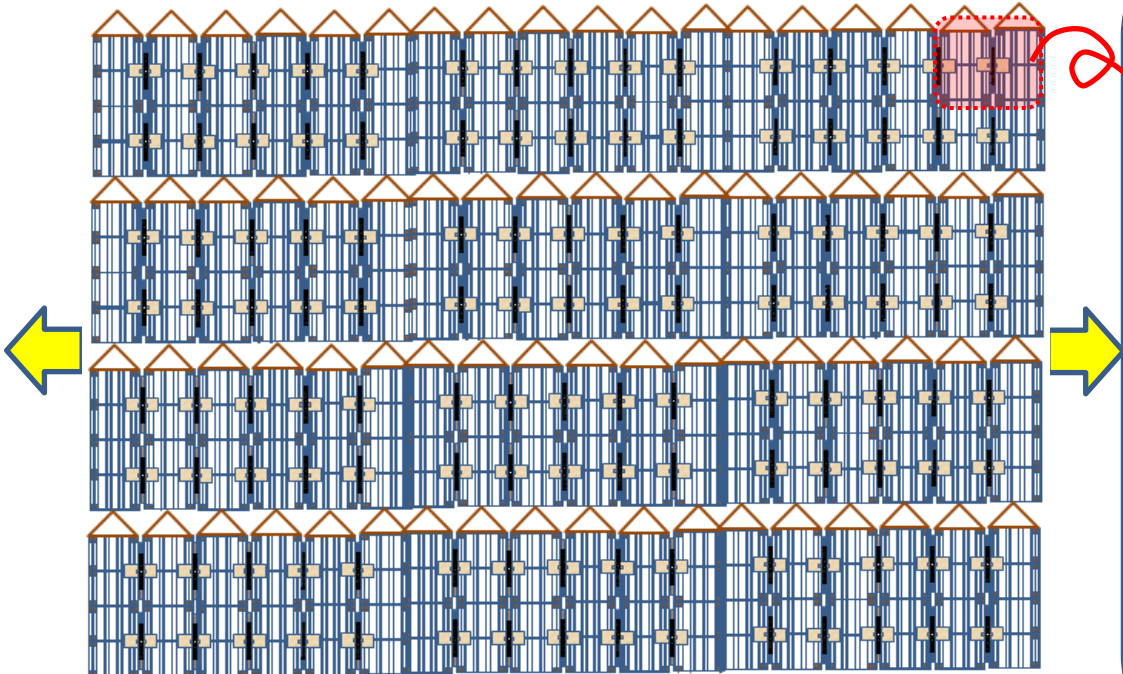
低コスト(洋上風力発電の1/200)・短納期(半年)・長寿(千年)

全ての波は海岸に向かって進みます。波の流路を狭めることで流れが加速し、大型水車を高速で回すことができます。

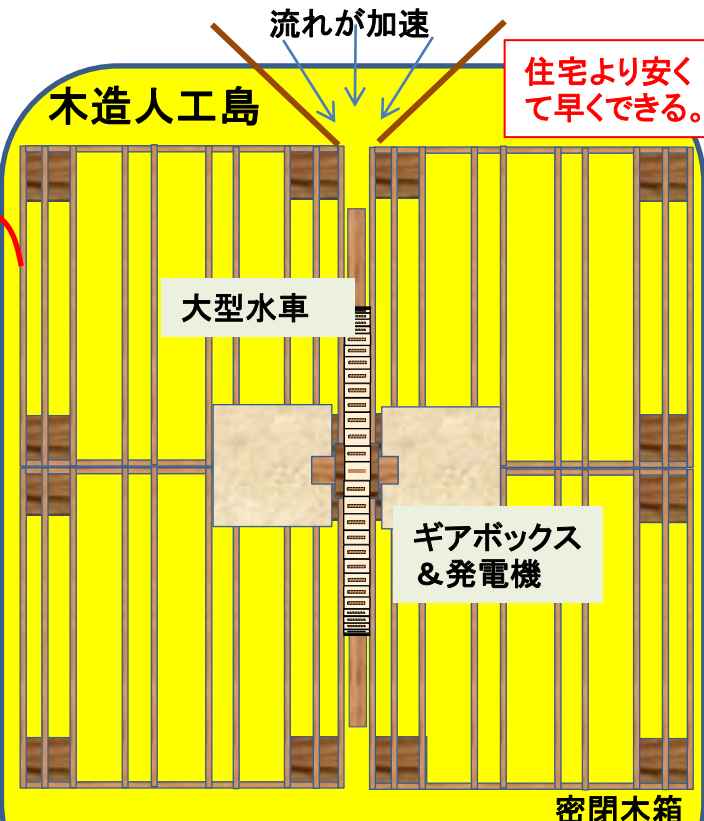
水エネルギーは空気の770倍、木製水車が世界を救う。

木造人工島の波発電は、低コスト・短納期・24時間大規模発電が可能で、環境にやさしく、森林の循環に貢献する。

大規模な拡張性



木造人工島
流れが加速
住宅より安く早くできる。



木造人工島の波発電で、全再エネ化達成

各種養殖が可能で、世界の食糧危機も同時に救うことができます。

風力発電

木造人工島の波力発電

大型羽根

もはや新しく計画をすべきではない。

Global standard

可変ピッチ機構
風速により羽根の向きを変える。

ブレーキ(台風対応)

ギヤボックス

発電機

回転機構(風向き対応)

土台

超高価(30億)
要台風対策
稼働率20%
メンテが大変
機構が複雑
健康障害あり

秋田沖洋上風力発電所
総工費約1千億円、出力4200キロワットの風車を能代港に20基、秋田港に13基建てるので、1基あたり約43億円となる。

出雲陸上風力発電所:
総工費約240億、出力3000キロワットの風車が26基、1基あたり約10億円となる。

水エネルギーは
空気に比べ770倍
(同じ回転数でも)
回転力がすごい。

木製水車

ギヤボックス

発電機

木造人工島

洋上風力発電: 1 VS 200: 木造人工島の波力発電

運動エネルギー

$$\frac{1}{2}mv^2$$

770倍

24時間一定して波がある

流路幅1/20で流速UP

低価格(1千万)
短納期(半年)
24時間大容量発電
森林循環に貢献
メンテナンスが楽
海産物農業が可能

(海洋ごみの収集が可能)

海水の流れは浅瀬に向かう性質があり、波は常に海岸に向かってきます。沿岸部に□12mの木造人工島を4個つくり、その上にφ19mの水車を設定し、水車の方向を海岸線に垂直に向け、波の受け口よりも狭い流路幅で水車を回すと高速で回転し、また水は空気のエネルギーに比べ770倍なので、トルクが大きく、ギアボックスでの加速が効き、高速で発電機を回し、24時間大容量の発電が可能となる。

低コスト・短納期・大規模に拡張可能で、森林の循環にも貢献し、環境にやさしく、すなわちglobalスタンダードとなり、世界の再エネの60%以上を賄うことができます。詳しくは木造人工島で検索され、ガーデンフィールドのホームページの「全方位同時改革&global同一改革」の資料をご参照ください。

見た目でも、実質でも単純な構造であり、古くからある技術の応用ながら、木造人工島の特許が取得できているので、「木枠を組んで、複数の密閉木箱で浮力バランスを保つ技術内容」が世界中の盲点であったと考えています。

24時間大容量の発電をし、台風及び地震や津波にも強く、また停電しにくく、カーボンニュートラルの達成が見えてきた、「今世紀最大の発明」の可能性ががあります。

150年前の技術で可能であり、法整備が整えば、すぐに着工できるものです。

木材は、海中では酸素がほとんどないため、陸地よりも長持ちし、液体ガラスコーティング等のコーティング技術によって、酸素が遮断されるので、必要なメンテナンスをしながら、基本構造として千年は維持され、また一般の木造の家を建てるよりも、はるかに単純な工程作業であり（将来的には木材加工のロボット工場化するとして）地元の木工所さんが加工できるものであり、必要な法整備があれば、各市町村様にて、どんどん進めることができ、100%再エネのスマート都市が来年にも数多く誕生すると考えています。

G7の（全国の）市町村の地元の製材所や木工所さんで、木材を加工（二人で運べる大きさ）し、船上にて□12mのユニットに組み立て、船上からクレーンで該ユニットを海上に下ろし、木製リベットで位置決めし、接着によってどんどん拡張していきます。木製の大型水車（19m）及び大型水車支持台（ベアリング付帯）も同様、船上で組み上げ、クレーンで吊りながら、組み込みを行う。また、ギアボックス及び発電機、およびそれらの支持台、並びに外装等もクレーンで吊って組み込みを行う。

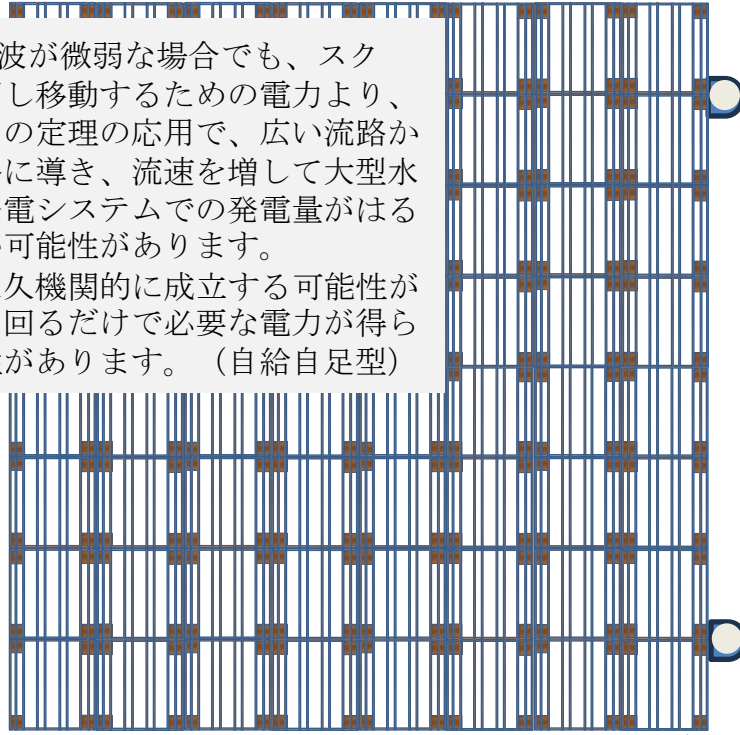
木造人工島群全体の位置決めは、海の浅瀬に複数のコンクリートの支柱をたて、また陸地と複数のワイヤーでつなぎ、潮の満ち引き（及び津波）に対応し、該支柱に沿って、木造人工島群が上下にシフトするようにする。

木造人工島群固定方法

潮の満ち干や津波の対応として、基本的にスライド機構が要求される。

湖等で、波が微弱な場合でも、スクリーを回し移動するための電力より、ベルヌーイの定理の応用で、広い流路から狭い流路に導き、流速を増して大型水車を回す発電システムでの発電量ははるかに大きい可能性があります。

発電が永久機関的に成立する可能性があり、動き回るだけで必要な電力が得られる可能性があります。(自給自足型)



番号	固定方法	条件
1	支柱にあてて、陸地からワイヤーで軽く引っ張る。	ごく短期間
2	木製のガイドを設定する。 ：液体ガラスコーティング	浅い場合は木製支柱を直接固定
3	木製のガイドと固定部とをワイヤーでつなぐ	海が深い場合 (自給自足型)
4	海流に流された分、スクリーで移動 (自動運転)	ごく深い場合 (自給自足型)

4 スクリュー

スクリュー

必要に応じワイヤーも設定してもよい

電源は海底ケーブルで送る

ワイヤー

2

陸地へ

処理水の積み込みの場合等短期間の固定の場合

1

固定

固定

簾合はゆるゆるにする。

3

木製ガイド (液体ガラスコーティング)

木製支柱 (液体ガラスコーティング)

ワイヤー

固定せず、落とすだけ

固定せず、落とすだけ

海洋都市等自給自足型の場合

海では塩分が多いため、鉄系はさびやすく、木製でコーティング処理したものを使う。



未承諾・
交渉予定

世界共通課題の環境問題は国連が中心になって、将来の仮シナリオを作成しながら、全方位同時改革及び全世界同一改革を目指していくべきである。

木造人工島の「波力発電」と「ブルーカーボン&海産物農業」の早期大規模普及により、世界のカーボンニュートラルと食糧危機とを同時に解決していく。

環境問題解決5原則

自然体で習慣化できること
より簡単になること
より快適になること
より安全になること
より豊かになること

ごみの分別、ごみの持ち帰り、ノーネクタイはOK
空調で我慢するのはNG(短期的にはOK)

部分的に考えるのはNG!

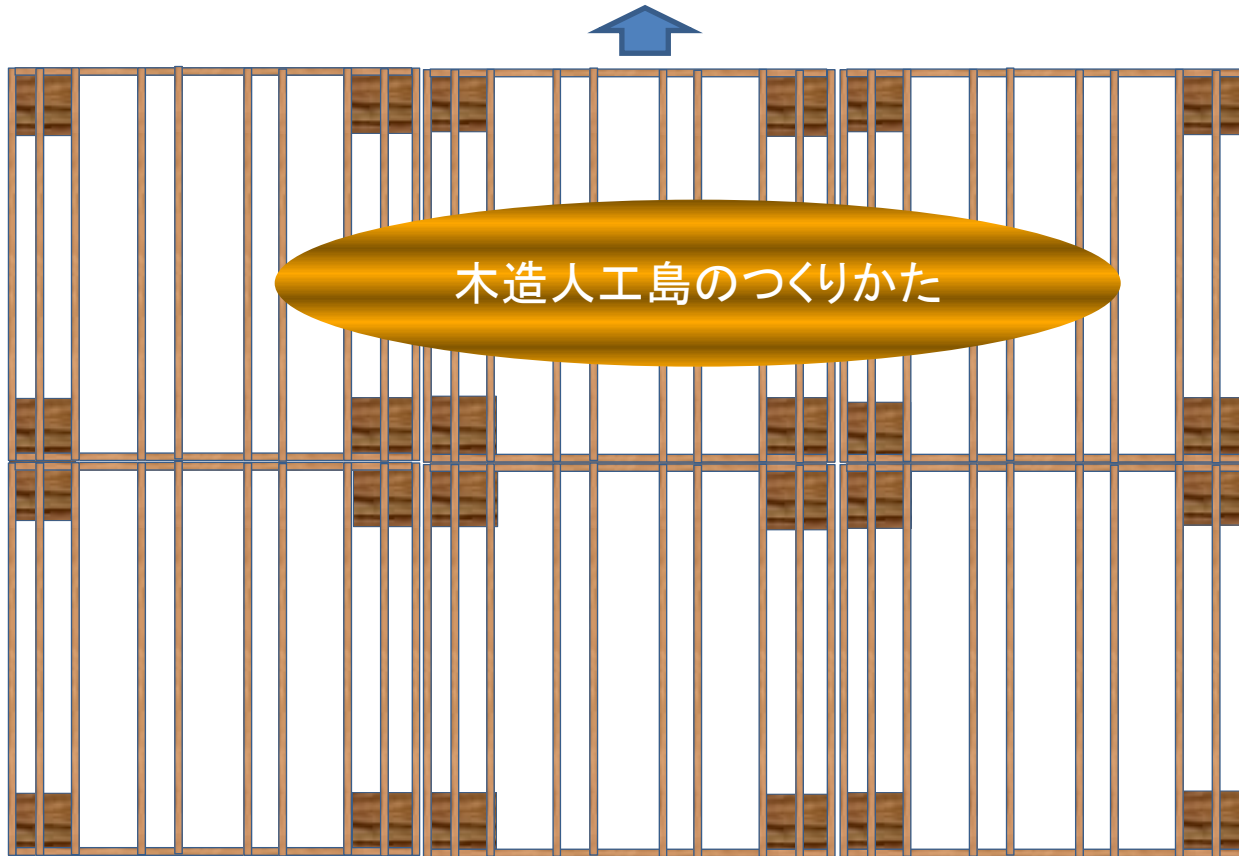
成果報告を求めずノルマを課さない
ほんのわずかにでも無理をしない
世界のトータルコストが減ること
世界のトータルで負荷が減ること
世界のどこかにしわ寄せがいかないこと

環境破壊を伴う、メガソーラはNG
森林伐採や健康障害を伴う風力発電はNG

可能な範囲で世界のありとあらゆる沿岸部と河川とを「木造人工島」で埋め尽くし、上側では大型水車を回し、ギヤボックスで回転数を増した上で、発電機を回し、下側ではブルーカーボンと各種の養殖や水耕栽培を行い、カーボンニュートラルと食糧危機とを同時に解決する。

ユートピア棟(ひだまり)社会にて、子育てと介護の改革をし、介護負担を大幅に減じた、誰も取り残さない、誰もが不安や不満のない、楽しく明るい世界を実現する。

□12mの人工島ユニットの場合は、標準木材:3000x300x200の外枠12個&骨組み24個使用し、長さ調整材:2600x300x200を10個使用し、また、両メス型外枠材3000x300x200を2個使用し(以上は床材)、さらに2000x2000x200等の密閉木箱を用意する(total100万位?)



特許: https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7112150

標準的には2mx2mx2m(約8t)の密閉木箱を4個(約32t)を配置し、積載重量に応じて、数をやしたり、下側に積み重ねることもできるので、大型木造ビルが立ち並ぶ、超大型海洋都市が可能になる。

ユニット同士の連結は、φ100の木製のリベットで位置決めをし、木工ボンド等で接着をする。

各地の木工所(製材所)さんにて木材を所定の大きさに加工し、一度仮組をして寸法の確認をし、ばらして、部品のまま船に持ち込み、船上で再組み、クレーンで下ろして、連結していく

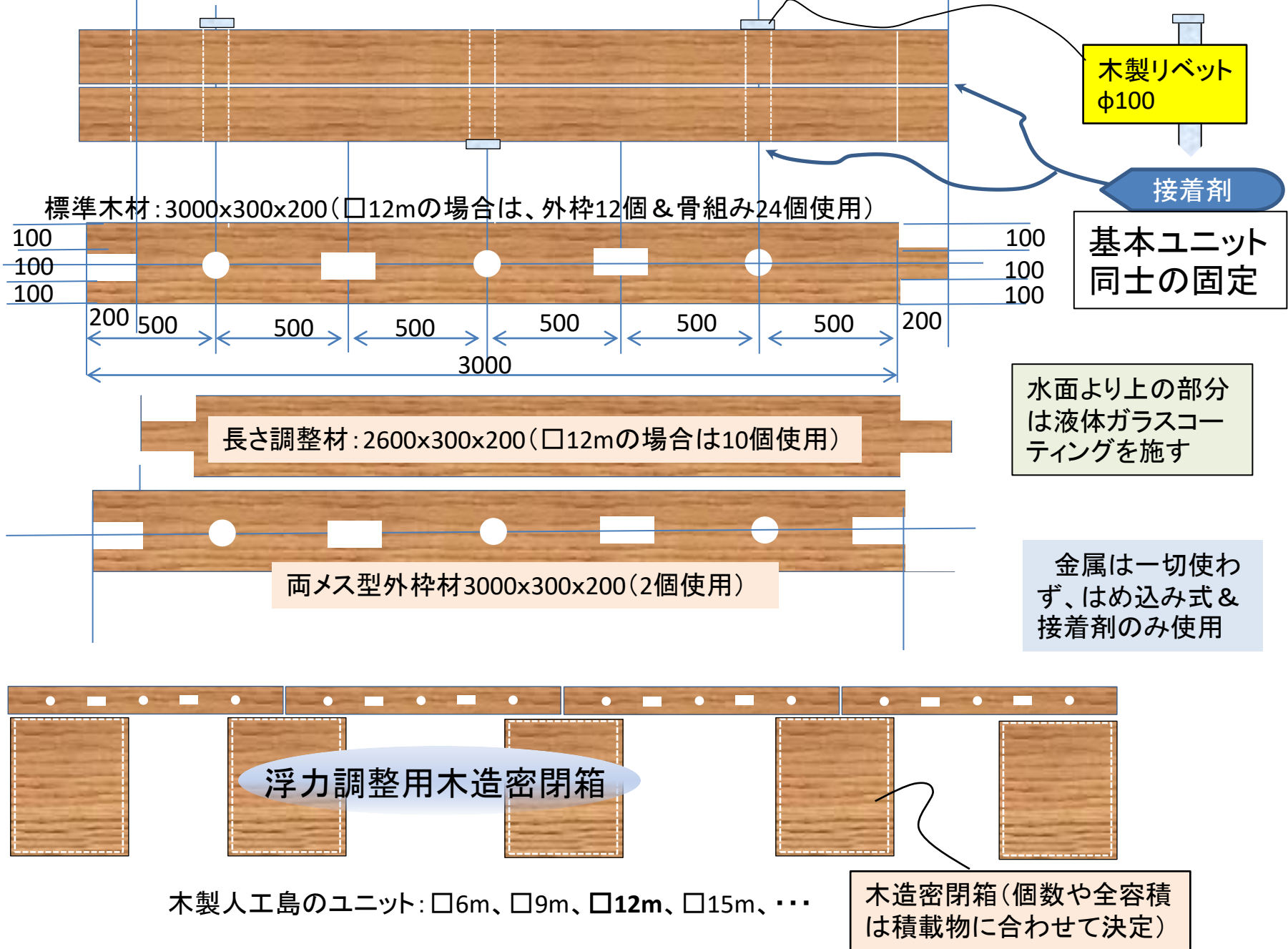
車や人が通る場所は、厚さ30程度の板材と手すりなどを用意する。

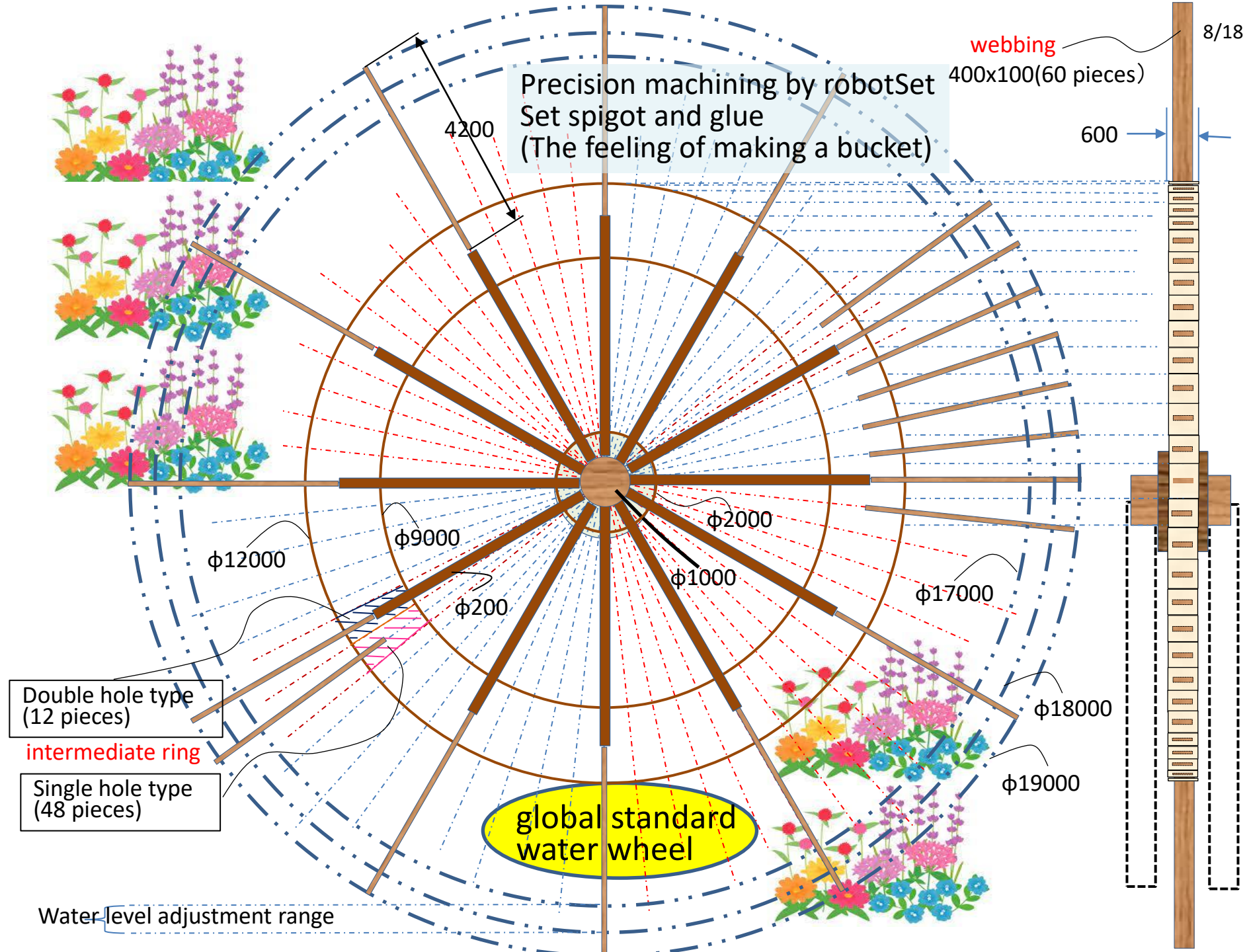
住居やビル等は、荷重を分散させながら直接建造設置する。

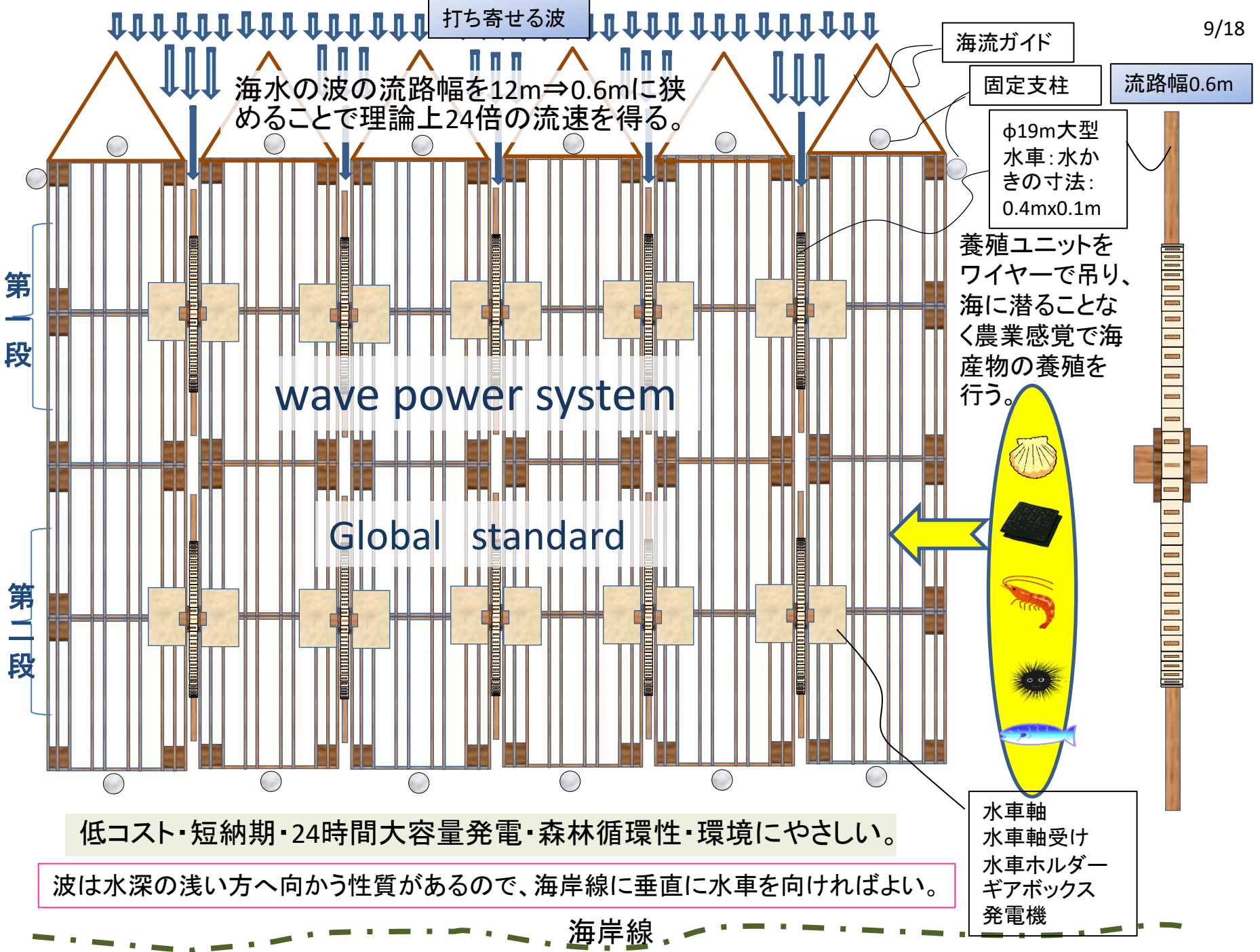
その他は、平均200の厚さの板材の上に、平均200の土を盛る。

木造人工島基本設計図

木材の種類は問わない。リベットは広葉樹の木材を使う







打ち寄せる波

海流ガイド

固定支柱

流路幅0.6m

海水の波の流路幅を12m⇒0.6mに狭めることで理論上24倍の流速を得る。

φ19m大型水車:水かきの寸法:0.4m×0.1m

養殖ユニットをワイヤーで吊り、海に潜ることなく農業感覚で海産物の養殖を行う。

wave power system

Global standard

水車軸
水車軸受け
水車ホルダー
ギアボックス
発電機

低コスト・短納期・24時間大容量発電・森林循環性・環境にやさしい。

波は水深の浅い方へ向かう性質があるので、海岸線に垂直に水車を向ければよい。

海岸線

第一段

第二段

流量の少ない河川ではプールを設定する。

Concave drop place for large stones

凹み

河川

コンクリート製の流木や大型ごみ溜めBOX (洪水時のみ浸水)

監視カメラ

増水時での水面ぎりぎりに張る複数のワイヤによる流木誘導

河川によさげなところに、深さ3mの横28m×縦25m (□12mの人工島を4個使うと想定の場合)の穴を掘り、周囲をコンクリートで固める

コンクリート製の部材で水路を絞る(ベルヌーイの定理の応用)

(5) 10-20m級の木製水車

ギアボックス付きの発電機

agricultural water

空きスペースで水耕栽培等も可能

mud spitting system

pool side view

pump

河川の周りをプール状に掘り下げ、土砂を周辺に盛り土し花壇や畑をつくる。

間隔調整が可能 なぎ部材 必要に応じ自動調整方式とする。

全周コンクリート枠 (流水口付帯)

国連の声出しで各国が競い合って進める。

コンクリート枠をぎりぎりで作ることで、特に人工島の固定を必要としない、左右は1~2mの余裕をとり、水路の間隔調整を可能にする。(自動調心性)

河川の水流発電(プーなしプールあり)によって、世界の50%以上の目標達成へ

河川の水流発電と水素社会の構築

手順2

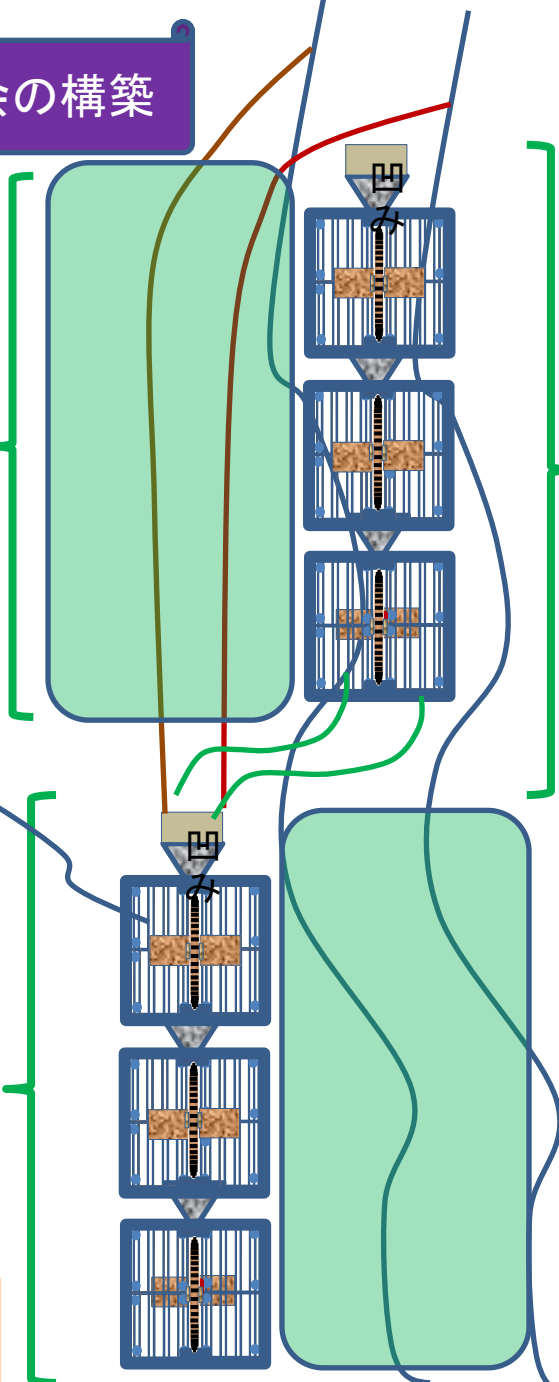
次に、第二群の大型水車の水流発電システムを設置できるよう、上側からの河川バイパス工事を行う。

水耕栽培・淡水魚の養殖を行う。

手順1

まず、中上流の河川の隣接地域で、平原で作りやすいところに、第一群のプール設置型の大型水車発電システムを作る。

もはや、実験検討以外の従来の再エネシステムは不要である。



優先順位: 1位: 河川の流れ発電
2位: 湾岸の潮流発電
3位: 家庭用ツリー型

手順3

11/18

第二群のプール設置型の大型水車の水流発電システムを設置する。
又、第一群へのつなぎ流路を設定する。

自動運転車の時代には、目の見えない人や足腰の立たない高齢者も乗車し、充電型はNG。また、蓄電池は劣化しやすいので、全固体電池のロボットによる自動交換システムの社会へ移行する。

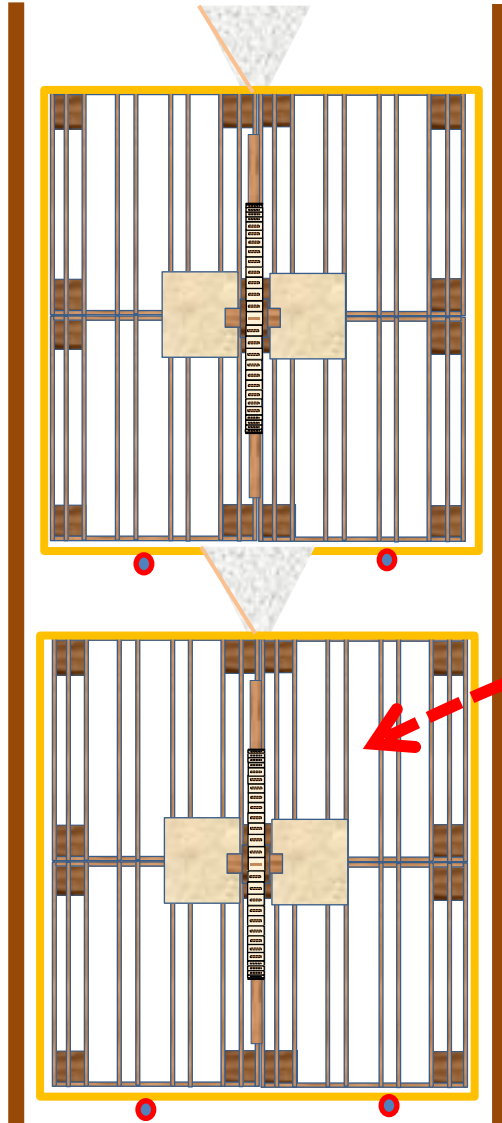
手順4

1. 水素タンク製造工場や人工光合成の工場を作る
2. プールや温泉あるいは、公園等々の市民の憩いの場所をつくる。
3. 低速自動運転車を家として使う人達用の駐車場 (麻雀・カラオケ・居酒屋)

プール作りで生じた大量の土砂を使用し、堤防に盛り土をするので、洪水に対してより安全になる。

現状の中流河川イメージ

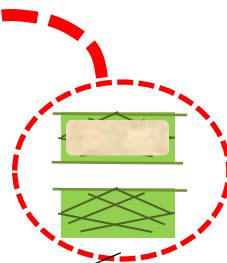
12/18



泥を吐き出す大型ポンプ(農業用水として有効利用)

水車ホルダー、ギアボックス、発電機等

スペースが足りない場合は盛土の上の一列の植林のみ、余裕があれば舗装遊歩道やその両側にも植林を行う。



舗装道路

水耕栽培用の竹製ざる。ひっかけ部も竹を使う。



下流(市街地)河川の木造人工島水流発電

流量の多い河川ではプールを設定しない。

取り込み水流幅の可変機構。

ウォーム付モーター
ウォームホイール

あらかじめ各部品を用意し、クレーンを使い組み立てる。

河川土手のワイヤ固定支柱

水車軸受け部

ポンプで水を入れる。
[水を潤滑剤として使用]

下流河川

木造人工島上の周縁部は、危なくないように柵を施したうえで、花壇と椅子を設定し、市民の憩いの場とする。(台風時等は、立入り禁止)、

竹は、支柱間では、強度補強として使い、それ以外はワイヤやケーブルの保護として使う。

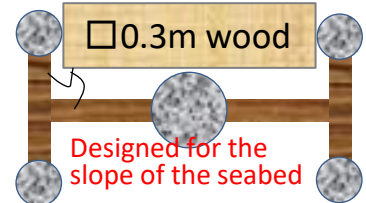
ワイヤー

ケーブル

竹

日本の重要な輸出産業とする。

日本の精密木工技術の腕の見せ所



reinforced concrete pillars

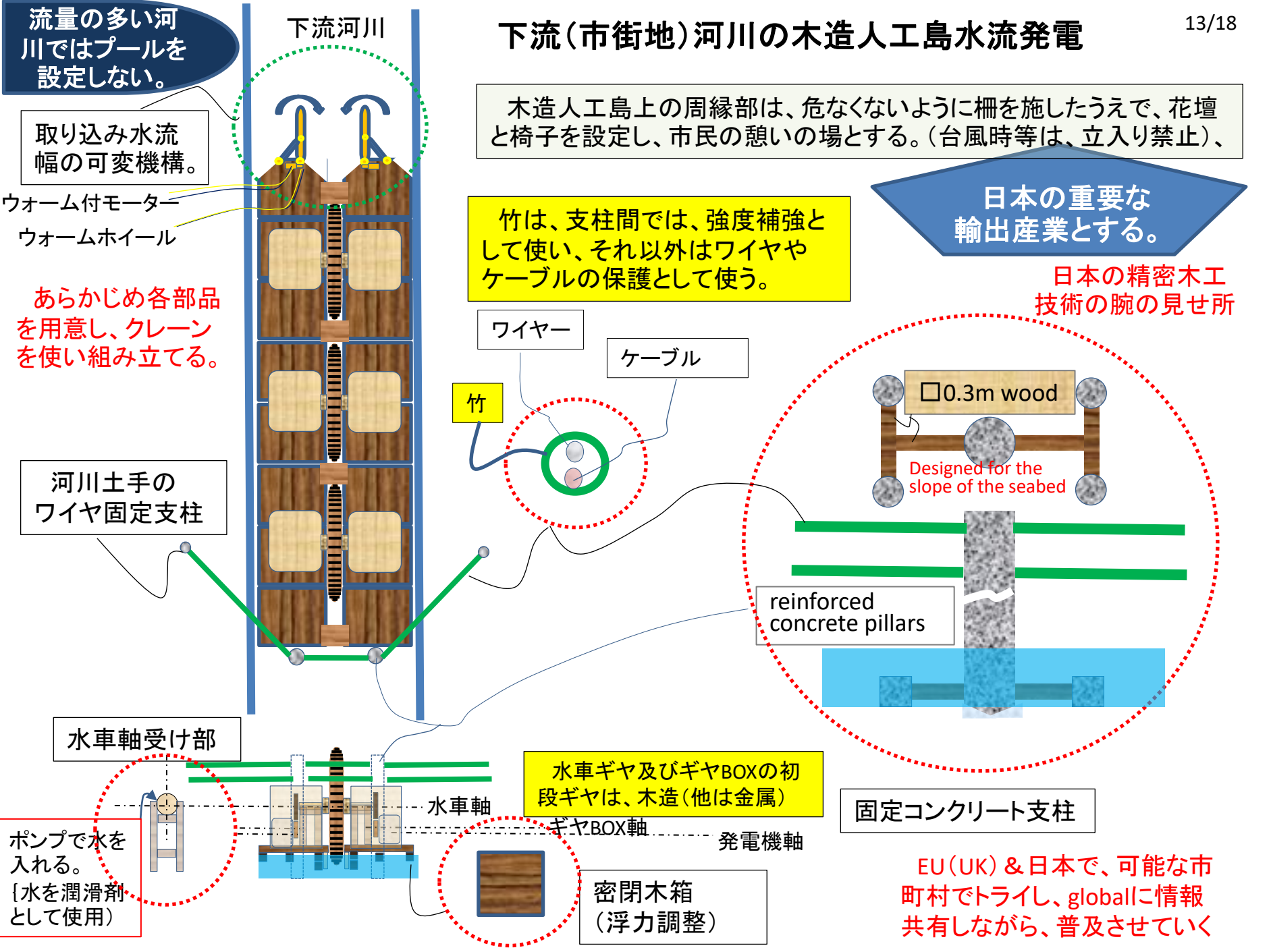
固定コンクリート支柱

水車ギヤ及びギヤBOXの初段ギヤは、木造(他は金属)

ギヤBOX軸 発電機軸

密閉木箱 (浮力調整)

EU(UK) & 日本で、可能な市町村でトライし、globalに情報共有しながら、普及させていく



	総合点	←個人の感覚的な判断による。
人工島の波発電	200点	低コスト・短納期・24時間発電・リサイクル性・海産物農
河川の水流発電	100点	水車に対し安定した水位、水流による自動調心性あり固定不要
人工島ツリー型	30点	メガソーラの40倍の設置効率（夜間・強風時発電できない）
家庭用ツリー型	10点	地中に固定、設置コストが安い（夜間・強風時発電できない）
洋上風力発電	1点	海の下の地中に堅固な土台を必要とし、設置コストが高い

陸上風力発電は健康障害・森林伐採を伴いメガソーラは環境破壊を起こすのでマイナス点

木造人工島や（プール設定）水流発電は環境負荷物質がなく、95%以上が木材で作れますので、世界中のどの市町村様でも作れます。1週間で設計、1か月で施工、1週間で移動、1週間で組み立て可能。木造水車や発電機も従来技術の延長であり、難しい技術はありません。

「ベルヌーイの定理応用で河川や海水の流速UP」

世界で一番潮の流れが速い場所はノルウェー北西岸にあるロフォーテン諸島間で、速さは28キロ前後なので、（ベルヌーイの定理の応用で）海流の「取り込み口」に対する、潮流発電の水車が置かれる「水路」との比を、場所により適正に設定することで、恒常的に36km/h=**10m/s**程度の流速が得られると考えており、また月の引力による潮の満ち引きがあり、リバーシブルの発電機を用意して、**任意の場所での24時間の潮流発電の稼働が可能**と考えています。河川の水流発電は流れの方向が決まっており、また陸地での作業なので、より構築がしやすい。

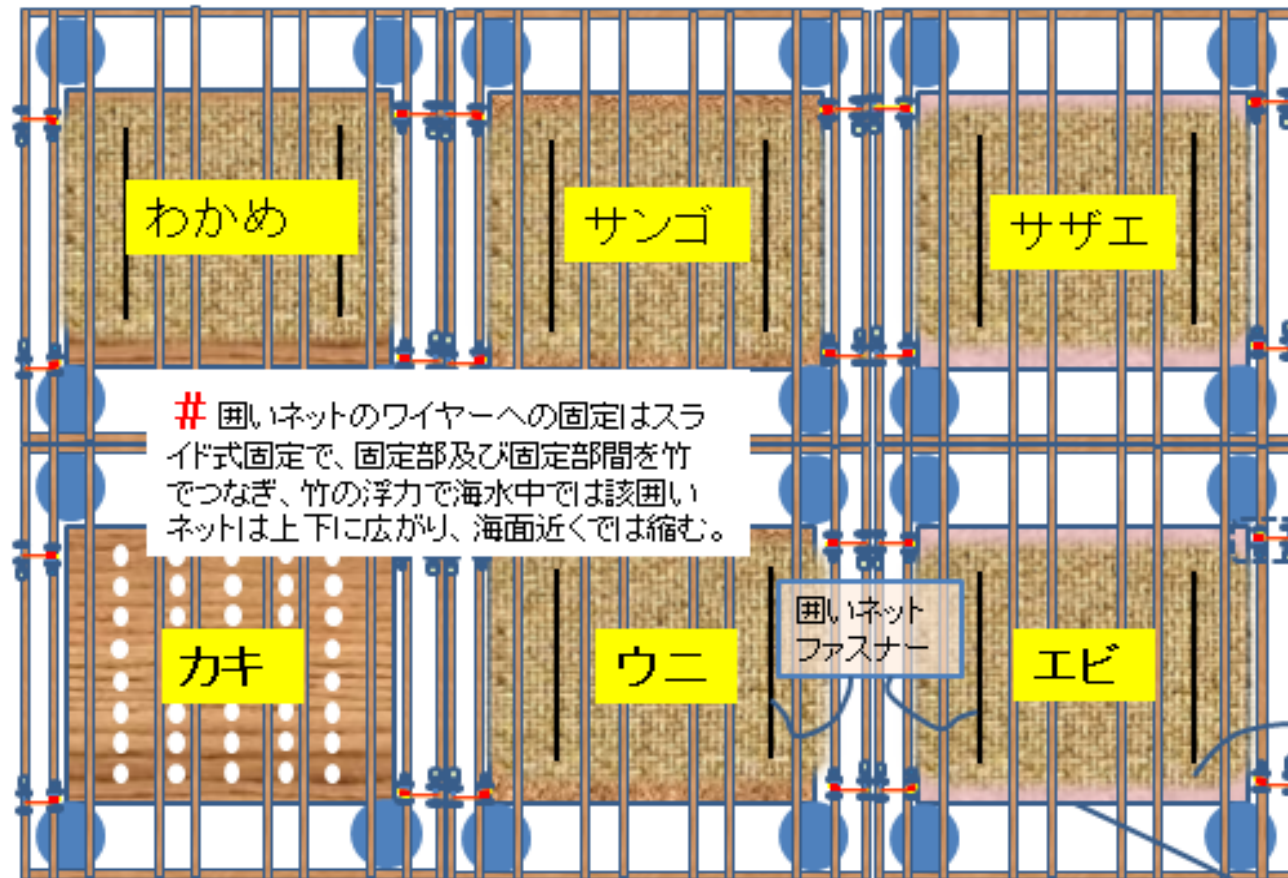
「潮流発電と洋上風力発電のコスト比較」

木造人工島は、木材で骨組みを組み、複数の「密閉木箱」を浮力調整用として使い、搭載物とのバランスをとる仕組みで、また潮流発電システム（大型水車及び軸受けや支持機構等がすべて木製、ギアボックス、発電機構などでは、金属を使う。）は、**木造人工島の骨組みに固定するだけなので、非常にコストが安くなります。**

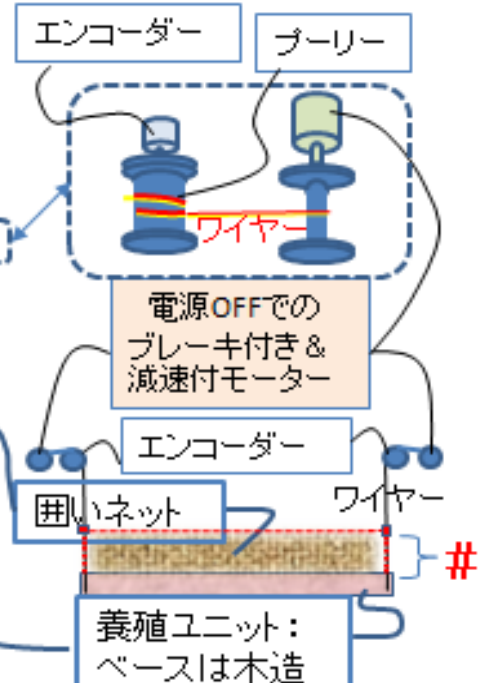
水の流れでの、莫大なエネルギー（風力の770倍）を背景にし、複数個の水車を連続で使うことで、一機あたりの発電量は圧倒的に大きい上に、設置コストは、洋上風力発電の**1/20程度**と見込んでいます。

海産物農業

□12mの人工島ユニットごとに、□8~10mの「養殖ユニット」を設定し、4本のワイヤーで吊り、AIが温度や日照を考慮して、最適な深さ制御を行う。



養殖ユニットの4か所をワイヤーで吊り、エンコーダー付帯のプーリーを一回転介してから、モーターで巻き取ることで、正確な高さ調整を可能とする。



特許: https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7240055

その地域の天候や海水温によりAI自動管理システムが深さ制御を行い各種海藻の最も適する深さで栽培する。



育成管理や収穫時には、海面近くまで引き上げ、潜らなくても作業できるようにする。(海産物農業へ)

● → ■ として考えてください

木造人工島の ブルーカーボン

藻

藻がCO2を吸収して、CO2が培養土に蓄積される。→CO2が蓄積された培養土を海に落とし、新たな培養土上に、藻を育成する。

藻

4か所のワイヤーで吊るし、千鳥格子状に藻(ベスト種)を育成(ベスト条件)する。

培養土

藻

木造人工島

密閉木箱の数を増やし培養土とのバランスどりを行う

ワイヤー

藻

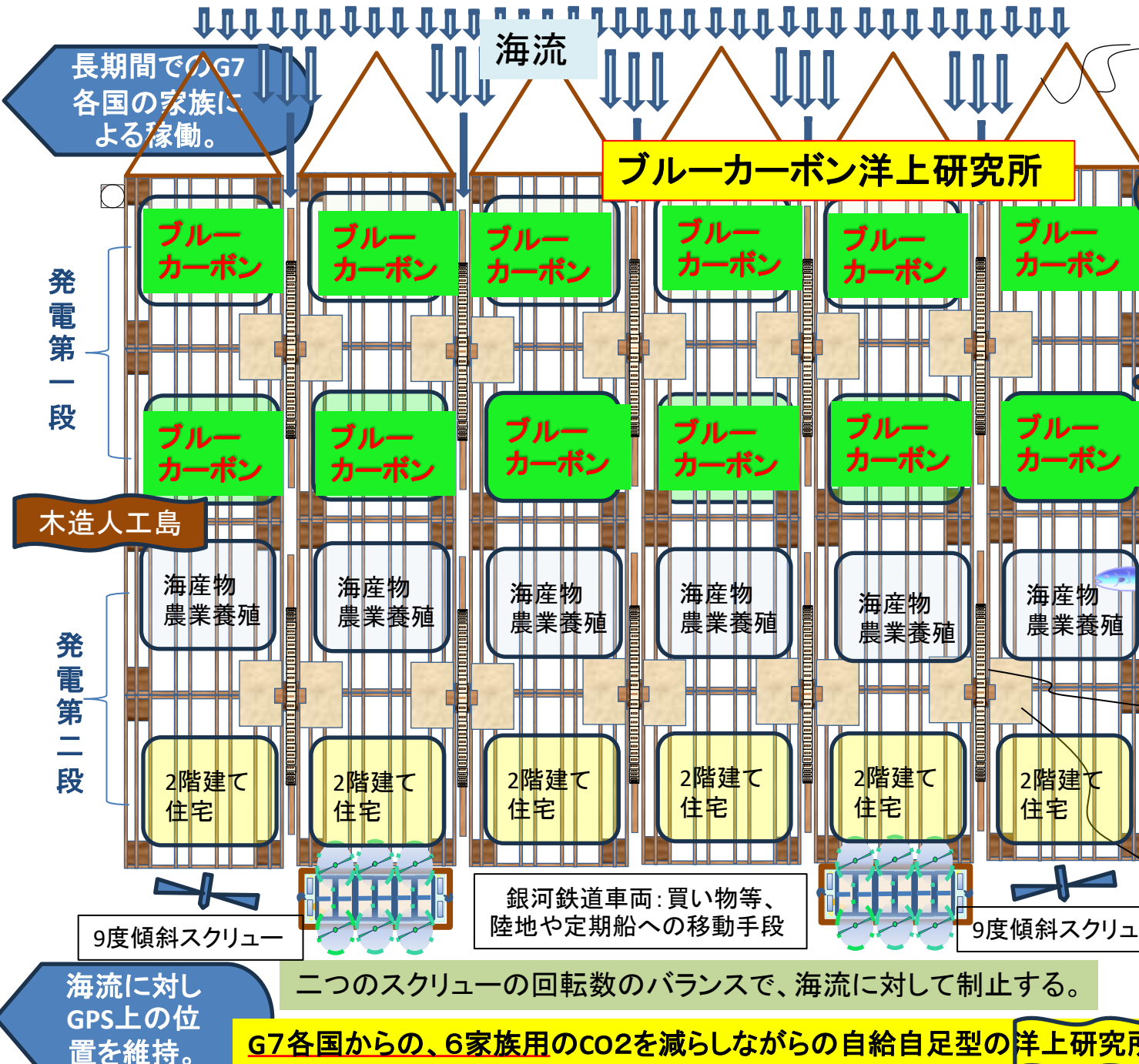
藻

藻

藻

藻に吸収されその下の土壌に蓄積される炭素のことを、ブルーカーボンと呼びます。木造人工島上で、低コスト簡便にできるので、早急に進めたい。

海流ガイド



長期間でのG7各国の家族による稼働。

ブルーカーボン 洋上研究所

港や航路、観光施設、景勝地を除き海・湖に全展開し、必要に応じ拡張していく。

各地域ごとでの「藻」の「高光合成種」及び育成条件をさぐる。

養殖ユニットをワイヤーで吊り、海に潜ることなく農業感覚で海産物の養殖を行う。

大型水車

衛星通信で世界各地の「洋上研究所」との情報交換を行う。

水車軸
水車軸受け
水車ホルダー
ギアボックス
発電機

波力発電

発電第一段

木造人工島

発電第二段

9度傾斜スクリュー

銀河鉄道車両: 買い物等、陸地や定期船への移動手段

9度傾斜スクリュー

二つのスクリューの回転数のバランスで、海流に対して制止する。

G7各国からの、6家族用のCO2を減らしながらの自給自足型の洋上研究所

海流に対しGPS上の位置を維持。

千年維持構造

海流ガイド

地震・津波に強い

海水の波の流路幅を12m⇒0.6mに狭めることで理論上24倍の流速を得る。

海水の波の流路幅を12m⇒0.6mに狭めることで理論上24倍の流速を得る。

必要な段数を確保

防波堤兼波力発電エリア

standard

流路を狭めるための海流ガイドが(あたかも船首のように)とがっており、また木材のフレームなので、海水が通過し水圧をうけにくい構造となっており、この様な構成で問題がないと考えています。(密閉木箱を流線形にする必要があるかも知れません。)

ブルーカーボン&海産物農業エリア

防水仕様木造住宅 居住エリア

現状でも(能登の地震でも)そうですが、とても大きな台風や地震が来ればそれなりに、家屋等の破壊があり(死亡者もでます)ので、木造人工島の各施設も場合により、破壊があっても、人的な被害がほとんどない(万が一海に投げ出されても、木片につかまることができる)ので、破壊したらリニューアルするという考え方も必要になると考えています。(過度な強度UPでコストをかけない姿勢)

コンクリート支柱

(海岸側)

ワイヤー(定期的に変換)

2030年の世界中の無人島のイメージ (カーボンニュートラルの目途が立つ)

海洋の流れは浅瀬（抵抗）に向かう性質があり、無人島を囲う形で波力発電やブルーカーボンを設定できる。有人島では、景観重視・漁業関連・海水浴場等々があり、拡張性が乏しいので、少なくとも世界のすべての無人島に設置していく。

洋上研究所のイメージ

特許取得済み

船着き場及び道路は、海底からのコンクリート製の固定部。大きい無人島では道路を飛行機の滑走路と併設してもよい。

グリーン水素生成工場、
グリーンアンモニア生成工場
商業施設・スポーツ施設・講堂

水素は爆発しやすいので、無人化工場とし、また爆発をしても安全な壁を用意するとともに、夜間では無人化する。

船着き場

無人島

船着き場

輸送道路

ブルーカーボン&海産物農業
エリア（半自給自足）

防波堤兼波力発電エリア

居住エリア：領海内ならその国の研究者が入居し、公海上なら国連スタッフとして世界各国から研究者（と家族）を募集する。

全国の市町村から世界中に輸出する。

Global Standard Technology

化石燃料を大幅に減らすことができ、そのコスト削減分で、主に無人島周りでの、木造人工島の波力発電とブルーカーボンを世界中で展開する。内陸部では、主に水素社会を構築し、石炭火力発電にはグリーンアンモニアを使う。

世界の将来の再エネ比較

洋上研究所

料亭で決定？

日本の褐炭事業
ブルー水素(CO₂排出)

日本の石炭火力事業
(アンモニアを添加)

CO₂を海底の地中に埋める技術は超コスト高となる。(陸上で、地殻変動や地震によって、CO₂が大量に漏れると、酸欠で大量の生物が死ぬので、海底にせざるを得ない)

グリーン水素が100円なら
2000円で作るようなもの。

褐炭に少量の酸素を供給して蒸し焼きにする。いわゆる不完全燃焼である。すると、褐炭は一酸化炭素(CO)と水素が主成分のガスに変わる。このガスから不純物を除き、さらに水蒸気と反応させると、今度はCO₂と水素が主成分のガスになる。CO₂を分離・回収すれば、高純度の水素が得られる。

石炭火力発電システムに少量のアンモニアを加えても、CO₂削減の効果は弱く、大量のアンモニアを使えば、効果はあるのですが、大量のアンモニアを生成するとき大量のCO₂を発生させるので、結局トータルでは、単独で石炭火力発電を稼働させることに比べてCO₂の削減につながらない。

世界の趨勢は
グリーン水素 &
グリーンアンモニア

香港InterContinental Energyなどがオーストラリア北西部で計画する「Asian Renewable Energy Hub(AREH)」では、洋上風力発電及び太陽光発電の再生可能エネルギーの発電出力は2027~28年以降順次拡大し、最終的には26GWにする。グリーン水素を年産最大180万トン、グリーンアンモニアを同1000万トン生産する。

ドイツや米国メーカーも同様な計画がある。

木造人工島の
波力発電

木造人工島の
ブルーカーボン

洋上研究所は ①超低価格②短納期③高機能で、④安全性が高く(もしミサイル等で破壊されても残木につかまることができる)⑤環境破壊がなく、森林の循環に貢献し⑥千年以上維持し、メンテナンスも楽ですし⑦とても楽しい生活が可能な「globalstandard」として広く普及すると考えています。

洋上研究所はHPの「SYONAN SUPER CITY」をご参照

洋上研究所といっても、一握りの専門家集団がいて、残りの99%の研究所では、栄養を与えたり様子をみたり(環境測定は自動測定で、衛星通信で専門研究者達に自動的に送られる。)すなわち、誰でもが洋上研究員になれるので、子供の体験学習や合宿など・・・

高齢者の終末の住家としても、ホスピスとしての可能性もある。

洋上ブルーカーボン研究所解説

木造人工島の前記研究所では、波力発電の生成電力が、スクリューによる海流の流れに対し移動阻止をする消費電力よりも、はるかに大きいと考えています。 **永久機関的**

なぜなら、海流の流路を狭めることで、10倍に加速された海流の流れで発電をするから。

砂漠地帯でも、地下水をくみ上げ、湖を作り「淡水藻」の養殖や「水耕栽培」等と飲料水や各種水源とを兼ねることができる。

洋上や湖上での木造人工島の「ブルーカーボン」でCO2を削減し、同時に洋上での木造人工島の「波力発電」での再エネ化（電力供給と水素生成）し、また「海産物農業」にて食糧危機の回避を行うために、その事前準備として、洋上の「ブルーカーボン研究所」を世界各地に設置し、世界の研究者たちが情報共有しながら、また競い合いながら研究を進める。（ANNEX-1をご参照）

従来はダムを作り、水力発電だけでは費用対効果が出にくかったが、湖上での「淡水藻」や「水耕栽培」等の養殖を付加することで、十分にペイする可能性が出てきました。

必要な再エネ確保

必要なCO2削減

食糧危機の解消

生産や生物の生活で生じるCO2



発展途上国の発展と人口増加に比例し、今後も増加の予測

電力供給

波力発電

アンモニア生成

化石燃料使用量

原子力発電所



ブルーカーボン

必要な用途は残し、現状の10%程度の予測

潜水艦から発射される無数のドローン攻撃に耐えられない。0に。

必要な航路や景勝地・海水浴場等を除き、木造人工島の「ブルーカーボン」「波力発電」「海産物農業」を世界のありとあらゆる場所で行う。G7はその主導的な役割を果たす。

2050年カーボンニュートラル(CO2±0)のイメージ

2030年の東京都の大島のイメージ)

都内

世界のカーボン
ニュートルに貢献

1000年維持

低コスト

短納期

東伊豆

銀河鉄道とは船のように水にも浮かぶ超低空（3m）の無人ドローン（12人乗り）

外海側：防波堤兼波力発電エリア
陸地側：ブルーカーボン&海産物農業エリア⇒災害時には、テントや仮設住宅等を置くことができるようにし、住居に転用可能とする。

海底ケーブルで電力を都内に送る。

房総

船着き場

船着き場

大島町

大島

船着き場

外海側：防波堤兼波力発電エリア
陸地側：ブルーカーボン&海産物農業エリア⇒災害時には、テントや仮設住宅等を置くことができるようにし、住居に転用可能とする。

24時間大容量発電

環境にやさしい

地震や津波に強い

Global Standard Technology

船着き場

海底ケーブル（他の伊豆諸島へ）

海洋の流れは浅瀬（抵抗）に向かう性質があり、必要な航路を残し、島を囲う形で広大なエリアの波力発電やブルーカーボンを設定し、波力発電の電力は海底ケーブルで都内に伝送し、ブルーカーボンのエリアでは、直下型地震等で、都内からの被災住民を受け入れるための、テントや仮設住宅を設定できるようにする。

化石燃料を大幅に減らすことができ、そのコスト削減分で、木造人工島の波力発電とブルーカーボンを世界中で展開する。東京都大島はその先駆けとなり、世界中から視察に来ると考えています。

大島の首都圏の再エネ基地及び直下型地震の退避場所構想

再エネの地産地消化の一環で、伊豆諸島での波力発電の超大電力を海底ケーブルで都心へ送る。また銀河鉄道で周遊できるようにする。

観光促進

地震津波に強い

木造人工島の波力発電&ブルーカーボン(↑兼仮設住宅)

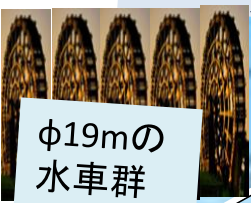
海深が急勾配のエリアは、波の進行方向が一定する場所が少ないと考えられる。

港や必要なエリアを除き、ブルーカーボンあるいは、海産物農業を行う幅100m x 島全周4000m

大島周囲の海深地図(他の伊豆諸島も同展開)

仮設住宅を6m x 6mの二階建てとして、幅100m x 島全周4000m ÷ 36 x 2 = 約2万世帯分の仮設住宅を設置できる。

遠浅のエリアは、長距離で波の進行方向が一定しており、波力発電を増やすことができる想定される。



φ19mの水車群

元町港

野増港

差木地魚港

波浮港

第三ゾーン

第二ゾーン

第一ゾーン(平均200m) x 島全周の可能なエリア40000mとすると、また波力発電が12m x 24mごとに径19mの水車を設定できるとすると、 $800000 \div 288 = \text{約}2800$ 個。水車1個で、平均的な風力発電1機の10倍程度の発電量があると想定しています。

Global
standard



円筒形高層ビル木材加工全自動工場

低速自動運転車で一定の大きさの木材を運び、自動搬入・自動加工・製品梱包・分別ごみを含めた搬出を全自動で行う。

1. ビルの屋上
2. タイヤ(重量受け)
3. 下側回転クレーンアーム
4. ワイヤー1(電源ケーブル付)
5. ワイヤー2(電源ケーブル付)
6. ロボットハンド
7. 低速自動運転トラック
8. 15階荷受け部
9. 16階荷受け部
10. 17階荷受け部
11. 円筒高層ビル側面
12. AIに画像情報を送るカメラ
13. トロコ形状の荷物受取の移動ロボット
14. 上側回転クレーンアーム
15. 各種木材
16. AIサーバー(全体統括)
17. ワイヤー滑車部

8~10番の荷受け部には、13が出入りし、各種木材を製造ラインまで運び、製造ラインのロボットが加工する。(全自動)

世界の市町村に設置し、各階で同じ自動化ラインで並行作業を行う。クレーンを回転しながら使い、無人運転のトラックにて、種々の材質、廃材を含め木材を運び、複数のトラックを停車させた状態で、荷台にある木材をクレーンで吊り上げ、各階の自動加工ラインの進捗状況に合わせ、木材を吊り上げて、ラインに運ぶ。複数のカメラで状況を確認し、AIがすべてを管理する。

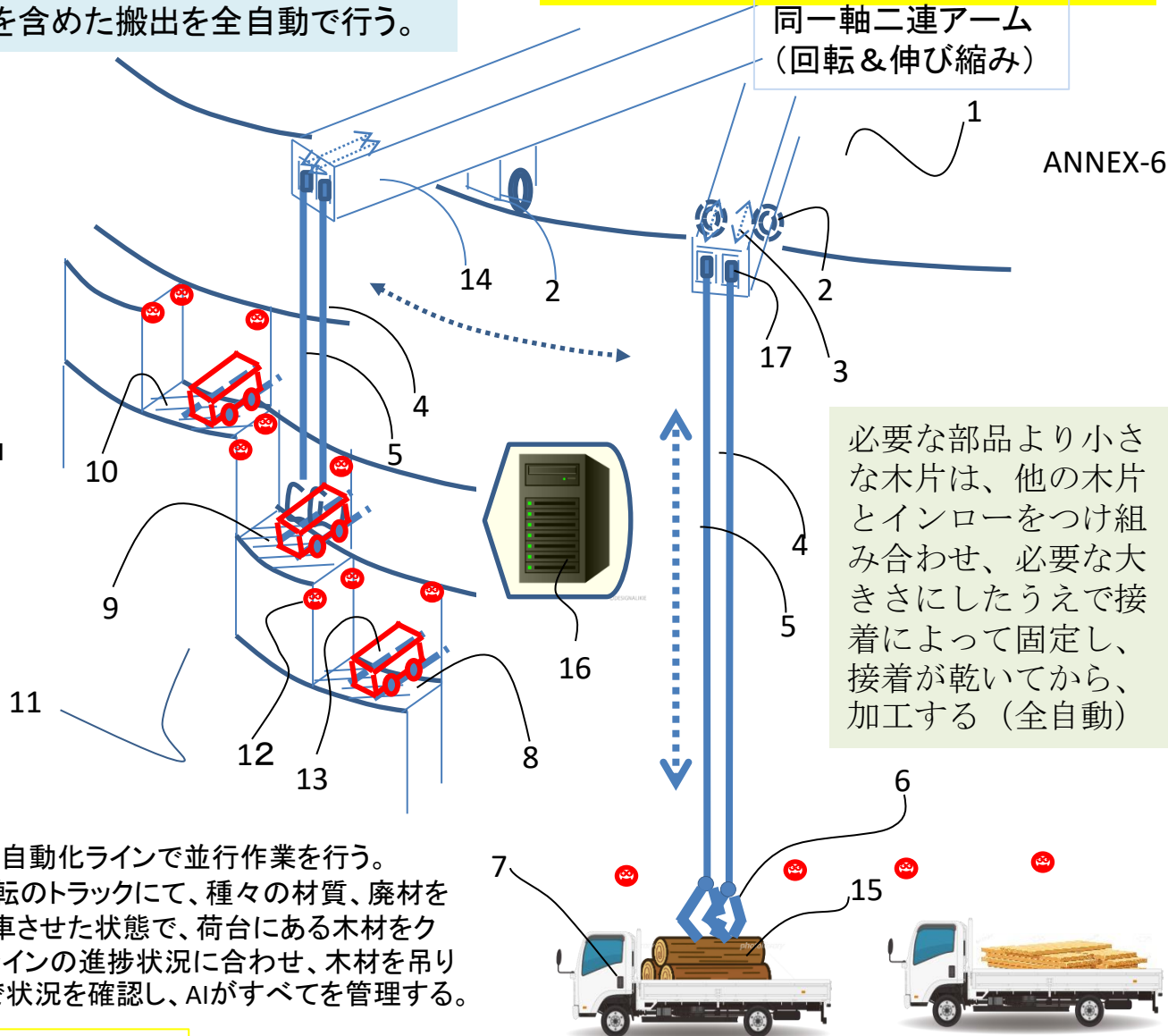
特許: https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7031786

在庫を持たず、トラックから直接釣りあげ、加工し、また加工品を直接トラックに積む。

AIが複雑な形状をした廃材を何の部品に適用し、どう加工したらよいかを決める。

同一軸二連アーム
(回転&伸び縮み)

ANNEX-6



必要な部品より小さな木片は、他の木片とインローをつけ組み合わせ、必要な大きさにしたうえで接着によって固定し、接着が乾いてから、加工する(全自動)

第四次産業革命

全国の各市町村に、24時間稼働の円筒型工場をつくり、全世界の姉妹都市の仕様にアレンジして輸出する。

- 1. 円筒工場の全国配備
- 2. 国立AI総合研究所
- 3. 国立輸出検査機構

地方の人口増加活性化
GDP大幅UP

世界で最も高い給料の
国立AI総合研究所

各分野での
技術開発力
NO1を維持

部品運搬→工程
の進捗に合わせて
自動投入する。

世界一進んだ
自動化工場群

<円筒工場のメリット>

中・大型部品の在庫を
もたず、複数のトラック
の荷台の種類異なる
部品をつり上げ、工程
の順番に沿って投入する。

円筒工場を全国の
各市町村に設置する。

全国の円筒工場の
サポート&チェック

国立輸出検査機構

